

東京都市大学校友会 会長 松村慶一

本日、ここに学位を取得された皆さん、誠におめでとうございます。

そして、この日まで支えてきていただいたご両親、ご家族の方々にも心よりお祝いを申し上げます。

ここにいらっしゃる卒業生の皆様は東京都市大学の「校友」となり、その同窓会である校友会の会員となりました。心より歓迎いたします。

同窓会である「東京都市大学校友会」は、東京都市大学の前身である武蔵高等工科学校が1929年に発足して、これまで10万5000余名の卒業生を要しています。そして全国各地、世界各地域で活躍している卒業生により運営されています。北は北海道から南は沖縄まで全国45の地方支部、米国支部をはじめ東南アジアなどの海外支部、そして官公庁、民間会社で勤務されている方々の組織として27の企業職場支部で構成されています。それぞれの支部で、地域でさまざまな活動をしています。また交流をしています。皆様もこれから勤務される会社、地域で諸先輩方交流を深められることを望みます。これら10万余名の先輩諸氏卒業生からのエールを皆様にお届けしたいと思います。

今日皆様には社会人となるにあたって、2つのことをおねがいしたいと思います。これからの皆様が歩む社会の環境、技術の変遷は、これまでにはないスピードで変化しています。そして多様化しているように思います。その中でみなさまの自身の変革が求められます。その飛躍への道を進めるための新たな「学び」、「発想」「行動」を求めたいと思います。

その1つはダイバーシティです。すなわち多様性への対応です。社会情勢の変化とテクノロジーの進展が速い今の社会において「社会人になる」とは、「学び終えること」ではなく「働きながら、学び続け、変わり続けること」を意味する言葉になっています。まさにこれらから求められるものは、「多様性（ダイバーシティ）への対応」です。そしてそれは「リスキリング（学び直し）」です。社会人として、個々に必要とするスキル、求められるスキルを探求、獲得し続けることが求められています。東京都市大学で培った様々な技術、教養を基盤技術として、さらなる「スキル」の高みを目指していただきたいと思います。社会人として、「個々に必要なスキル」、「求められるスキル」を探求する、スキルを獲得し続ける取り組みをお願いします。

その2つ目は、「セレンディピティ」です。「セレンディピティ」で新たな「学び」、「発想」「行動」の実行です。「セレンディピティ」とは、イギリスの小説家・政治家であるホレス・ウォルポールが生み出した造語で、『セレンディップと3人の王子』というおとぎ話が語源になっています。王子たちが旅先で優れた能力や才気によって、有益なものをおもいもかけず発見して手に入れるという物語です。

科学者や研究者が予想もしていなかった結果に苦悩しているとき、ひらめきによって新たな発明発見が見出されることを指します。発見までにいたる観察、知識などが「セレンディピティ」と言われています。

半導体の発見、カッターの発明 ポストイットなどが「セレンディピティによる発見」といわれています。

「セレンディピティ」とは、単なる「偶然の発見」ではなく、「偶然を引き寄せる力」と言えます。広い視野を持って物事を見たり、いつもとは違う行動をしたりすることで、セレンディピティに出会う可能性が高くなります。そのためには、培った技術、教養が基盤となって得られる「気づき」の大切さです。成果や幸運は、様々な生活の場面、仕事の場面で自らの行動、試行錯誤の繰り返しから偶然起きる可能性です。何事にも好奇

心を持って、意識的に行動することが重要です。常日頃からの知識の追求、経験の醸成、そして胆力すなわち勇敢に挑戦する精神力が求められます。

「セレンディピティによる発見」の気かけの一つとして「人との交わり」すなわち「交流」ではないでしょうか。様々な考え方、価値観を持つ多くの人と会話することで、そしてその機会を積極的、意図的に作ることで自分にはないヒントが得られるでしょう。「卒業生同士の交流」は新たな発見を導くものと思います。卒業生の個々に保有する知的財産を一層の高みに、そして個々の保有する知的財産を相互に共有する「知の共有」で皆様の社会への貢献、技術革新への貢献が果たせるものと確信しています。

多くの仲間との交流を、はぐくんでいただくことをおねがいします。自らが決めて取組んだその先に、皆さんの心の豊かさ、生活の豊かさ、人生の豊かさ、そして社会の豊かさを導くことができると信じます。

これからの、人生100年時代に向けて、健康をはぐくみ、力いっぱい活躍されることを祈念しまして、本日の祝辞とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

以上